

名家連ニュース

平成 25 年 5 月 21 日 (火)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀場 洋二
TEL/FAX (052) 411-2890 NO. 253 号

第15回名家連大会開催

本年度前半の最大の課題 - 相談支援体制の改編

3障害対応の基幹相談支援センター改編に向けて、名古屋市は本年度前半に内容を確定し、秋頃に公募する段取りです。



15 家族会から 85 名の家族が参加

I 型地域活動支援センターも検討されています。このままでは精神の基本相談も緩やかな社会参加の場もなくなってしまうこととなります。会長挨拶もこの問題一点に絞り、来賓出席の名古屋市（河村市長代理）に「生活支援型（基本相談機能と居場所機能を併設）地域活動支援事業」の設置を強く求めました。

議案書と資料集に掲載した相談支援体制に関する家族会の要望は、既に、学識者や精神対応の地域生活支援センターとも意見交換を求めてきたものです。この輪をさらに広げるとともに、他障害の地域生活支援センターとも意見交換を活発に進めていくことにしています。

名家連大会第 2 部「親が元気なうちに（親亡き後問題）」パートⅡ

講演「当事者の体験から学ぶ」

Aさん⇒ひとり暮らしをしている
Bさん⇒高齢の親と一緒に暮らしている
Cさん⇒両親を見送り単身生活している

3名の体験発表の中から紹介

Aさん ⇒ どうしていいかわからない時など不安もあるが、親と一緒にいる時には感じられなかった清々しさがある。私は深く考えずアツカアツと暮らしている。

Bさん ⇒ 病気の理解がなく、お互いに行々する時もあった。今は 84 歳の母と助け合って生活している。

一人になった時のことを考えると不安になる。

Cさん ⇒ 親が亡くなれば嫌でも自立せざるを得ない。世間の風をまともに受けた。困ったとき、親戚よりも相談できる友達のほうが大切だった。



熱心に聞き入る 123 名の参加者

3人に共通しているキーワード⇒「居場所がある」「支援者がいる」「友達がいる」ことでした。親が元気なうちに、キーワードに繋がれば安心ですね♪ お金より大切ですね…

寄せられた意見・感想 ○当事者の方のお話は、本当に素晴らしかったです。生きる苦勞はみんな同じだと感じました。○重い筈の体験なのにユニークさも深い味を感じました。とても癒されました。○素晴らしかったの一言に尽きる。いい勉強になったよ。

○三人の方の言葉ひとつひとつに胸に深く刻まれました。医者などの話よりよっぽど勉強になる。○このような企画をした名家連に感謝・感激です。また是非、企画してほしい。○本人を連れてきた甲斐があった。私も感動している。



会場からの体験発表 ○不遇な環境と、社会で味わされた辛い体験、多くの方が涙を流していました。Mさん♪ 勇気と感動…ありがとう♪